

RIVAGE

平成26年10月1日発行
横浜市立上永谷中学校
『RIVAGE』第2号
3年 半田乃愛
3年 真木あゆみ
3年 宮城春香

私たちのくらしと港

私達の街、みなとまち「横浜」。私たちがくらす横浜は、世界でも有名な港町です。今ではおなじみのアイスクリームや新聞などが初めて日本に持ち込まれたのは横浜港なのです。

が、実はその貨物の99.7%は船で運ばれています。横浜港では年間約110



の約30%がなんらかの形で横浜港に繋がっています。港は私たちの生活を支えています。私たちの生活に欠かせないものがたくさん横浜港から輸入されています。みんなが身に付けているシャツ、

1859年横浜港が開港して以来、日本はたくさんの国と貿易を行っています

00隻もの船が外国との間を行き来しているのです。また横浜市内で働く人達

スカート、ズボンは何処から来たのでしょうか？ 文房具はどこから？

コンテナターミナルはコンテナ船が着く場所を指します。そこは海と陸の輸送を結び接点となる場所でも重要なところ。コンテナの積み下ろしや保管、貨物の検査なども行われています。そんなコンテナターミナルには、それぞれ役割を持った様々な場所があります。コンテナタ

ーミナルの入り口となるゲート・チェッカーと呼ばれる場所ではコンテナに不備がないかを

リー・クレーンと呼ばれるコンテナの積み降ろしを操作するクレーンやそのガントリークレーンから降ろされたコンテナを決められた位置に運ぶハウストレーラーや、船に積んだコンテナを崩れないようにラッシャーなど、コンテナターミナルには沢山の場所があるのです。

海と陸の架け橋

点検したり、船や目的地、コンテナナンバーなどを確認するなどしています。また、ガト

好きな食べ物はどこから？自分の身の回りにはどんな外国製品があるのか。例えばみんなもよく知っている天ぷらそば。その材料のほとんどが外国から運ばれてきたもの。また、おすも外国から輸入された材料が多く使われています。



首都圏は国際戦略港が1港、国際拠点港湾が1港、重要港湾が4港、遠行港湾が30港存在します。国際戦略港湾では長距離の国際会場コンテナ運送に関わる国際会場貨物輸送網の拠点となり、かつ、当該国際海上貨物輸送網とを結節する機能が高い港湾であり、その国際競争力の強化を重点的に図ることが必要となる港湾として定められています。

国際拠点港湾は国際戦略港湾以外の港湾であり、国際海上貨物輸送網の拠点として定められています。重要港湾は国際戦略港湾及び国際拠点港湾以外の港湾であり、海上輸送網の拠点となる港湾とその

他の国の利害に重大な関係を有する港湾として定められています。地方港湾はこれら3つ以外の港湾を指します。このように様々な港湾に分かれ、それぞれの役割を果たし首都圏の港湾が成り立っているのです。

首都圏の港

港からみんなの家まで

誰もが大好きなバナナは専用船やコンテナ船で輸入されます。バナナはどのようなルートでお店に並ぶのでしょうか。バナナを例にお店に並ぶまでを追いかけてみました。バナナが入ったコンテナが向かった先は出田町碼頭。「バナナ碼頭」と呼ばれています。バナナ専用倉庫があります。コンテナから出されたバナナは専用倉庫に一度保管されています。バナナはまだ青くて固い状態です。その後、熟成業成と呼

ばれる特殊な倉庫に運ばれたバナナは、ここで数日間熟成させ黄色いバナナになります。そして袋に詰められて、お店に向かいます。様々な人の手を経てようやくコンビニから約1ヶ月の旅を終えてバナナがお店に到着します。人々の安全を守るために横浜税関は輸入した品物の書類を審査したり、品物に応じて税金を納めてもらう手続きをしています。また輸出入が禁止されている品物がかくされて

っています。農林水産省植物防疫所が輸入された農産物の病虫や害虫がないかどうか検査をします。このほか、動物や食品などの検査も行われ港で危険なものを防いでいます。そしてみんなの安全を守っているのです。

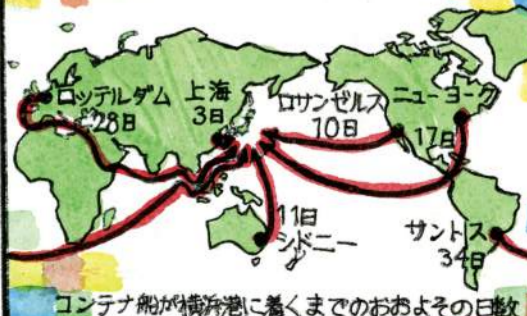


コンテナの旅 港を支える人たち

私達の生活に必要な物が世界中から毎日横浜港に届けられます。その多くがコンテナという大きな鉄製の箱に詰められて運ばれてきます。横浜港には船が停泊したり、貨物の積み降ろしや保管できる頭が10ヶ所あります。その中で大黒頭・本牧頭・南本牧頭・横濱頭、コンテナターミナルが整備されています。コンテナ船が横浜港に近づくとパイロットが船に乗り込み、船長をサポートして安全に

船の出入りを誘導します。そのパイロットの指示に従って大きな船を押し送り、着岸や出港を助けるのが、タグボートです。

る人たちもいます。300m以上もある大型船が混雑する横浜港を安全に効率よく出入りするためには、多くの人の協力が必要不可欠です。このように港にはたくさんの人に支えられて成り立っているのです。そんな横浜港に世界からコンテナ船が着くまでのおよそ、その日数は、ニューヨークは17日、サントスは34日、シドニーは11日、ロッテルダムは28日、といったようになっていきます。こうして10日から何十日もの時を経て、世界各国から横浜港へ様々な物資が届けられているのです。



大型化が進むクルーズ船

船名	船型<総トン数>	船幅	乗客定員
飛鳥II (邦船最大のクルーズ船) 初就航:1990年	<50,142トン> 必要岸壁水深 満潮喫水 8m程度 7.8m	マスト高 45m 全長241m	29.6m 872人
Queen Elizabeth II (豪華客船の代名詞。 2006年11月引退) 初就航:1969年	<70,327トン> 必要岸壁水深 満潮喫水 11m程度 9.7m	マスト高 53.25m 全長293m	32.0m 1,773人
Voyager of the Seas (2012年、日本に32回寄港予定の大型クルーズ船) 初就航:1998年	<137,276トン> 必要岸壁水深 満潮喫水 10m程度 8.8m	マスト高 63m 全長311m	38.6m 3,114人
Queen Mary 2 (日本に寄港した最大のクルーズ船) 初就航:2004年	<148,528トン> 必要岸壁水深 満潮喫水 12m程度 10.3m	マスト高 62m 全長345m	41.0m 2,592人
Oasis of the Seas (世界最大のクルーズ船) 初就航:2009年	<225,282トン> 必要岸壁水深 満潮喫水 11m程度 9.1m	マスト高 65m 全長360m	64.0m 5,400人

大型化が進むクルーズ船は、巨大になっています。日本最大のクルーズ船、飛鳥IIはマスト高が45mで、また豪華客船の代名詞Queen Elizabeth IIは、マスト高53.25mでベイブリッジを通過し、横浜港大さん橋国際ターミナルに寄港出来ま

したが2012年日本に32回寄港予定の大型クルーズ船 Voyager of the Seasはマスト高が62mあり、ベイブリッジ55m、レインボーブリッジ52mを通過出来なため、港湾管理者が貨物船用岸壁での受け入れを検討しています。また、日本に寄港

した最大のクルーズ船、Queen Mary 2はマスト高62m、世界最大のクルーズ船 Oasis of the Seasはマスト高65mあり、ベイブリッジ、レインボーブリッジを通過できないため、同じく貨物船用岸壁での受け入れを検討になるでしょう。

編集後記

私たちは、3年間この新聞制作を行ってきました。集大成である今回は受験生で大変ではありましたが、チームワークの良さで完成に至りました。横浜は勿論、様々なことを学べて私たちは成長出来たと思います。

